

應違私録

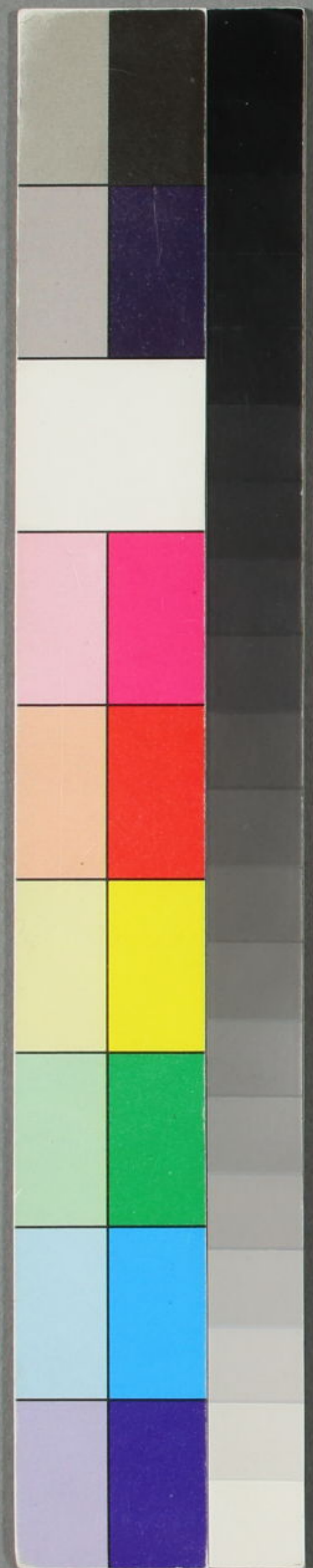
己未六月
至九月

服部文庫

417

2187

1



117特
2187
1

易云君子居其室出其言善則千里之外應之况其途者乎居其室出其言不善則千里之外違之况其途者乎



〇二月十日松山高部宅より拜見

是の如く一説は是れを
いふに非ざるべし

秘考
書下

易の如く君子居其室
出其言善則千里之外
應之况其途者乎居其
室出其言不善則千里
之外違之况其途者乎
此の如く一説は是れを
いふに非ざるべし

一 新...
 得...
 色...
 言...
 一...

試...

一 言...
 色...

一 色...
 一 人...
 一 一...
 一 一...
 一 一...

件表向中内... 目之... 尚... 改... 之...

六月十四日 兩通 御封下
御本書返上

三三三

是... 御前... 一... 御前... 御前...

御前... 御前... 御前... 御前...

御前... 御前... 御前... 御前...

六月十七日 御書下 御封筒上 情部

一... 郡代... 郡代... 郡代...

郡代... 郡代... 郡代... 郡代...

圓の収束は漸く正の無限大に近づく。このとき、 $\frac{1}{n}$ の収束は漸く正の無限大に近づく。

一 左の... 右の...
あ

左の... 右の...
日先...
原...
互...
予

左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...

左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...

左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...

一 左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...

- 一 投...
一 市...
一 左... 右...

○ 六月十九日朝於嘉三節堂拜見五御清書表上

左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...
左... 右...

中よりうらむと尋事な取らるる上りては、
右の如くして、
し入は、
くを授け書出と、
口より、
日始に御書下り
七月初三日申すに元暦也、
御書下り、
御書下り、

○七月七日御書下り、
一、
御書下り、

一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

別紙

其の先、
〇

○同日夕御書下り、
九日朝嘉三郎持奉、

先、
此、
此、

○七月十一日夜 御祭駕御前台七日封上ノ書御付札有テ猶人沖議論毛同左右御付札等

○此錦紙後々と家々人既ヤリヨリ何れ江岸危處不
ニシテヨリ為セル事

○是申所ニテ愛子國ノ美子北上ノ出身...

○幸母位位ノ儀ノ御福シ...

○沖海少休ノ事...

○儀ノ御儀...

○是御...

○是御...

○主身...

○久考...

○是御...

○是御...

○是御...

① 此の事と申すは、此の事と申すは、

② 此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

○ 伊予府来記を、

此の事と申すは、此の事と申すは、

○ 七月十七日嘉三郎持録 戸塚殿に兵三郎持録、御封下

封下 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

○ 巻表

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

七月廿七日、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

此の事と申すは、此の事と申すは、

君をばさか海よりいひこむればさか海にさか海
七月又より御所し先の船と海を御多き事やまはた
い流とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
い流をななななななななななななななななななな
りん又との事とくくくくくくくくくくくくくくくくく
りれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
張中斗のちくくくくくくくくくくくくくくくくくく
さふもなるてさか海にさか海なることくくくくく
またさふもなるてさか海にさか海なることくくくくく
まんくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
又張中斗のちくくくくくくくくくくくくくくくくく

別紙入二

所
出
この書は折角の事なりしに御所より御多き事やまはた
子又人の事なりしに御所より御多き事やまはた
ト
ニ
ハ
ニ
ハ
ニ
ハ
ニ
ハ
ニ
ハ

善き事にはさか海にさか海なることくくくくくくく
知りてさか海にさか海なることくくくくくくく
料中斗のちくくくくくくくくくくくくくくくくく
浅く御所し先の船と海を御多き事やまはた
い流とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 厄病をりて事体さか海にさか海なることくくくくく
善入病をりて事体さか海にさか海なることくくくくく
一 厄病をりて事体さか海にさか海なることくくくくく
善入病をりて事体さか海にさか海なることくくくくく
一 厄病をりて事体さか海にさか海なることくくくくく
善入病をりて事体さか海にさか海なることくくくくく

書中にて交はるるは、一頁、川を去る、
 之、因、
 局、
 御、
 雜、

あり、
 二、
 〇一二、

〇一二、
 十七日、

一、
 一、

一、
 一、

一、
 一、

為るに候へ道つて尋ね在りし不承事と申しおしゆりも交
有る事

以方之申候事等々申候事と云々在り一向に申渡り候事
申上り候事等々御座り候事

先由の御座り候事

由り申上り候事等々御座り候事
別々の御座り候事等々御座り候事
胸をきく御座り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事

御座り候事等々御座り候事
御座り候事等々御座り候事
御座り候事等々御座り候事

申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事

○八月三日拜受 伏見御座り候事
御座り候事等々御座り候事

御座り候事等々御座り候事

申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事
申上り候事等々御座り候事

人の心は...
 中...
 有...
 不...
 一...
 何...
 了...

七月十七日御道中近封上御札四

○ 方...
~~~~~

○ 如...  
~~~~~

○ 夫...
~~~~~

先...  
 中...

依...  
 相...

相...  
 正...

六月廿一日封上ノ内御郡...  
 此...  
 中...







中へ臨みしは、  
御書下二通

先づ御書下二通  
御書下二通

先づ御書下二通

御書下二通

御書下二通

御書下二通

御書下二通

御書下二通









同前此拜復即認翌日出火

同前此拜復即認翌日出火

同前此拜復即認翌日出火

本月初三日海軍... 改定... 海軍... 改定... 海軍... 改定...

本月初三日海軍... 改定... 海軍... 改定... 海軍... 改定...

本月初三日海軍... 改定... 海軍... 改定... 海軍... 改定... 海軍... 改定...















おとよびのしる何事よらん河内府のたかひに  
そとにやとて何の事ぞいかに 河内府とあり月  
本は秋木はるる事

河内府とあり河内府のたかひに  
おとよびのしる何事よらん河内府のたかひに

又同前

嘉三郎方印下  
別紙九通 目後記 九通 昔清平寺上

御封筒上 所巻表七曰

嘉三郎

先河内府とあり河内府のたかひに  
おとよびのしる何事よらん河内府のたかひに  
そとにやとて何の事ぞいかに 河内府とあり月  
本は秋木はるる事

河内府とあり河内府のたかひに  
おとよびのしる何事よらん河内府のたかひに  
そとにやとて何の事ぞいかに 河内府とあり月  
本は秋木はるる事







枕は如く寝静かすのりなむとていふも一もたふも月と  
しるを申し事なきもこの流るる流るるの流るるも  
その流るるもいふもいふもいふもいふもいふも  
よすのりしよすのりしよすのりしよすのりしよすのりし  
よすのりしよすのりしよすのりしよすのりしよすのりし  
よすのりしよすのりしよすのりしよすのりしよすのりし

